

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： ニチケアセンター黒沢尻・2階ユニットスマイル

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600187		
法人名	株式会社ニチ学館		
事業所名	ニチケアセンター黒沢尻・2階ユニット スマイル		
所在地	岩手県北上市さくら通り3丁目18-10		
自己評価作成日	平成30年8月17日	評価結果市町村受理日	平成30年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani_trrue&Ji_gyosyoCd=0390600187-00&PrEfCd=03&VerSjOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年9月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の個性を重視し、ご希望を出来るだけ聞きながら柔軟な対応が出来るよう努めております。
事業所内で行われる行事の際には出来る限りご家族や、地域の方にもお知らせしています。また、地域の行事にも可能な限り参加したり、近くの飲食店や店舗を利用し、地域とのつながりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街の中心地に位置し、周辺は文化施設や商店、住宅、公園が整備され、生活環境に恵まれている。避難訓練へは商店の従業員や地域住民が参加し、踊り、民謡、三味線演奏のボランティアも訪れているほか、地域の文化祭に利用者の作品を出品するなど、地域との交流に力を入れている。また、運営に当たっては、職員で定めた理念や基本方針、スローガン、年間目標(健康維持、笑顔の引き出し)を職員間で共有し、日々の業務に当たっている。運営推進会議の委員に医師や看護師を委嘱し、健康の維持や感染症予防への助言、提案を頂き、業務に反映させ、さらに、看取りへの対応に向けた医師による研修会を開催したほか、訪問診療による指示、指導を受けるなど、医療と連携した充実した介護サービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 0 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

平成 30 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：ニチイケアセンター黒沢尻・2階ユニットスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に職員で話し合い、事業所理念を決定した。ホーム入口に掲示し、ミーティング時には職員で唱和している。	職員で定めた理念や年間目標を共有し、日々の業務の中で対応している。健康維持には、医師の訪問診療や訪問看護ステーションから看護師の派遣を得て指示、指導を受けている。利用者の笑顔や個性を大切に、好きな物、新たな行動の発見に努めながら対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を通じて地域の情報を収集し、可能な限り参加している。ホームのイベントに歌や踊り、演奏など協力を頂いている。避難訓練にも参加いただいた。	避難訓練得への参加、支援を得ている。ボランティアによる敬老会、新年会での歌などの披露、子どもみこしの受け入れ、利用者作品の文化祭への出品など、地域との交流を進めている。回覧板も回ってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学会などを通じて相談を受けている。地域の行事参加を行う中で、理解を得られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	医療関係者からの助言で、体調管理についての知識を得られ、介護に生かしている。御家族や地域住民から地域の状況や希望などを聞き取り交流の機会を作っている。	区長である委員からの非常階段使用の避難方法、医師・看護師による健康維持・感染症予防の提案・提言を受け、階段使用の模擬訓練やインフルエンザ予防接種を受けるなど、業務に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターにも運営推進会議に参加して頂き、助言を受けている。	市主催の介護関係制度改正の説明会や研修会へ参加しているほか、家族等の要請を受け、要介護認定申請の際にも助言、指導を受けている。日々の行政情報は、運営推進会議委員の地域包括支援センターの職員や広報紙を通じて得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を定期的に行い、常に意識を持って業務にあたっている。	本部の通知や事例、関係資料を活用し、身体拘束委員会(委員:管理者、支店長、グループリーダー)を開催し、その結果を研修会等を通じて職員に周知、徹底している。玄関は夜間のみ施錠し、2階のエレベータ前のドアは帰宅願望者対応のため、最小限の時間、電子ロックにより施錠している。	

[評価機関：特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、職員の言動や行動が虐待となっていないか振り返り、意識を高めている。会社の虐待防止に関するスローガンを掲示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人が付いている入居者様がいたのである程度の知識はあるが、詳しい内容は把握していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い契約している。改定時には家族会を開催し、説明を行って文書を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者御家族へ、年に1回顧客満足度調査を実施しており、結果については本社、事業所で共有し改善を図っている。	家族等への満足度調査により意向を把握するほか、面会時の聴き取り、遠方者へは電話で照会しながら業務に反映させている。また、日々の生活の中で、利用者に寄り添い、笑顔で接し、散歩、買い物などの要望に対応している。	家族と丁寧に連絡をとりあっているが、行事内容や写真が掲載された広報誌の活用は、家族や関係機関の理解を得る手段として効果的と思われる、今後の取り組みを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングには支店から役職者も参加し、状況を把握している。	職員の提案により、業務の年間目標を定めているほか、行事のプランナー2名が計画を企画し、家族参加の敬老会やドライブなどのイベントを開催している。また、個人の面談を通じ、それぞれの希望や意見を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業者内での研修ないようについて希望を聞いたり、外部研修にも参加できるようシフト調整を行っている。 キャリアアップ制度により、就業条件など向上につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、資格取得について説明し、スキルアップにつながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内他事業所との研修会参加や、同法人内の他拠点スタッフとの交流の機会を持っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談からご本人の困りごと、不安なことを十分に聞き取り、管理者や介護リーダーが中心になって安心して頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や契約時にご家族の困りごとや不安なことを伺い安心して頂ける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、入居前の担当ケアマネジャーや関係機関と連絡を取り、必要な支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見極め、役割を持った生活が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、1ヶ月中の生活状況がわかる情報を郵送したり、必要時には来所して頂き関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用している美容院への外出や、入居前から通院していた医院へ継続通院する事も楽しみにしている方もおり、ご家族の協力も得ながら支援している。	近所の方の送迎で、地区の敬老会へ参加し記念品まで頂いている。通院の際の買い物、馴染みの美容院でのパーマ、ドライブの際には自宅周辺を巡ることもある。遠方に住む家族から、母の日にカーネーションがプレゼントされる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や関係性を理解し、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご希望があれば相談に応じる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出など突発的な要望があった際、ご家族に連絡を取り、可能であれば対応している。職員の体制が可能であれば対応している。	一人一人がして欲しいこと、したいことなどを聞き取り、食事や外出、調理や清掃の手助けなど、意向に沿って対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、入居前の担当ケアマネジャーや事業所からの情報、毎日の生活を通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を把握し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活状況やご家族の要望を情報共有し、定期的なカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	短期6カ月、長期1年で計画を見直し、緊急や変化があった場合は3カ月で対応している。職員作成の個別のカンファレンスシートを基に、計画の原案を作成し、カンファレンスで検討し、医師や看護師の指示や指導を受けている。家族の要望、意向を確認し、同意を得たうえで計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、業務日誌の他に、申し送りノートを活用し、情報共有や計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の行動や発言をできる限り聞き、さまざまなサービスを提供できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な範囲で、近隣住民やボランティアの協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を定期的に受け、結果をご家族に報告している。必要時には電話相談を行い早期対応に勤めている。	かかりつけ医を家族の同意を得て、協力医に変更したが、診療科目によっては、以前のかかりつけ医を受診している利用者もいる。かかりつけ医による訪問診療を受けるほか、職員又は家族の同行により受診している。歯科は家族対応で従前のかかりつけ医を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約し、週1回の訪問時に入居者の健康状態について相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関と情報交換し、連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は重度、看取りの方はいないが今後対応していく方針であり、かかりつけ医の変更や職員研修など体制を構築中。	今後、看取り指針に基づき、看取りの対応をすることとしている。医師による研修会を実施したほか、看護師等による実務対応についての指導を受けるなど、体制を整えるとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの設置、職員研修を行い、たいおうできるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署職員立会いの非難訓練の他にもユニットごとに非難訓練を行っている。	地域住民や商店の職員の参加、支援を得て、消防署員立会いの避難訓練や夜間想定訓練を実施した。2階からの避難誘導の際には、布団を利用した。地区の避難場所などは、ハザードマップや情報端末で入手している。非加熱の食材3日分を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前を呼ぶときは、苗字で呼ぶ方、下の名前前で呼ぶ方、ご本人に合わせている。常に、人生の先輩という気持ちを忘れずに接している。	個人情報、ファイルで個別にまとめ、事務室のロッカーで管理している。利用者写真等のホームページ掲載は予め家族の同意を得ている。利用者へ親しみをもって話しかけているほか、排泄を失敗された方へは、心情を大切に他者に知られないよう社内用語を使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や要望をうまく表現できない方も、意向を理解する事に注目、自己決定へつなげられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に添えるよう、できる鍵rの対応に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理容での整髪、ご家族の協力も得ながら同じような着衣にならないよう声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食べ物の把握に努め、状況によっては別メニューを提供している。また、調理に関心のある入居者とは出来る限り一緒に下準備や盛り付けなどを行っている。	昼食、夕食のおかずは、宅配業者による配達とし、ご飯、味噌汁と朝食は、近くのスーパーで食材を買い出し利用者も一緒に調理している。メニューは、宅配業者のリストから、職員が選択している。敬老会や誕生会は利用者の希望に沿って献立を決めている。ドライブの際には、レストランや回転寿司に立ち寄ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	租借や嚥下状態を考慮し、各々にあった形態で提供している。食事量や水分量の記録を確認しながら、不足の方には追加摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは声かけにより、実施している。必要に応じて歯科受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を把握し、トイレ誘導を行うなど可能な限りトイレでの排泄介助を行っている。	排泄チェック表を作成し、利用者ごとに誘導、案内している。自立者は1、2階8名で、布パンツにパットを併用し、他の方はリハビリパンツを使用している。ポータブルトイレの利用はなく、介助も見守り、ズボンの上げ下げ程度である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の型に歯詩文摂取や運動を促している。また、主治医から処方されている下剤によつての排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	同姓介助の希望を考慮した対応や、予定した日時に拒否があつた場合などは状況を見て変更対応している。	週2回、火曜日以外の2日置きの午後に入浴している。機械入浴者はなく、介助は頭、背中の流し程度で、見守りを中心とし、時には菖蒲湯、ゆず湯、入浴剤を利用し、歌や昔話、職員との会話で楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前、昼寝をされていた方など各々の習慣に添つた支援やその日の体調を考慮した支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の薬に関する説明書をフアいるし、ないよう把握に努めている。また、服薬の変更時ん派申し送りノートに記載し、伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、出来そうな事の把握に努め、各々に適した矢くありがもてるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の支援も受けながら、自宅へ行ったり、買い物や食事に出かけたりと、希望に添えるよう対応している	天気の良い日は、毎週、火曜日に1時間近所の公園などを散策している。希望により、お菓子等をコンビニに買い物に出かけるほか、花見、お祭り見学、ドライブ(タクシー)で紅葉(温泉地)や空港ターミナルに出かけている。家族と食事に出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には小額のお金を持っていただき、訪問理容後の支払いや、買い物の支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、職員が電話をかけ、話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは明るさやわかりやすさ、温度などに配慮している。フロアは季節に沿った飾り付けを行い、季節感を味わっていただけるようにしている。	2階建ての建物で、クリーム、茶色を基調とした落ち着いた色で、広々としたロビーに食食用テーブルが配置され、テレビやCDの音楽が流れている。習字や折紙、文化祭出展の作品などが壁に掲示され、季節の七夕などで飾られている。温度はエアコン、一部床暖、加湿器、空気清浄機で管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席以外の場所にも椅子を置き、同じ場所だけで過ごすのではなく、違った角度からもまわりを見渡せるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたなじみのものを持ち込んでいただいたり、ご希望でテレビを持ち込んでいただくなど各々に適した居場所の工夫に努めている。	クローゼット、テレビ端子、エアコンが設置され、ベッド(貸し出し可)、フuton、衣装ケース、サイドテーブル、テレビ、時計、カレンダー(法人提供)、家族写真、位牌、利用者の作品などが持ち込まれ、利用者の個性を生かした居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有フロアに、トイレや浴室、台所、居室が続いており段差もないため、自由に行き来する事が出来る。		